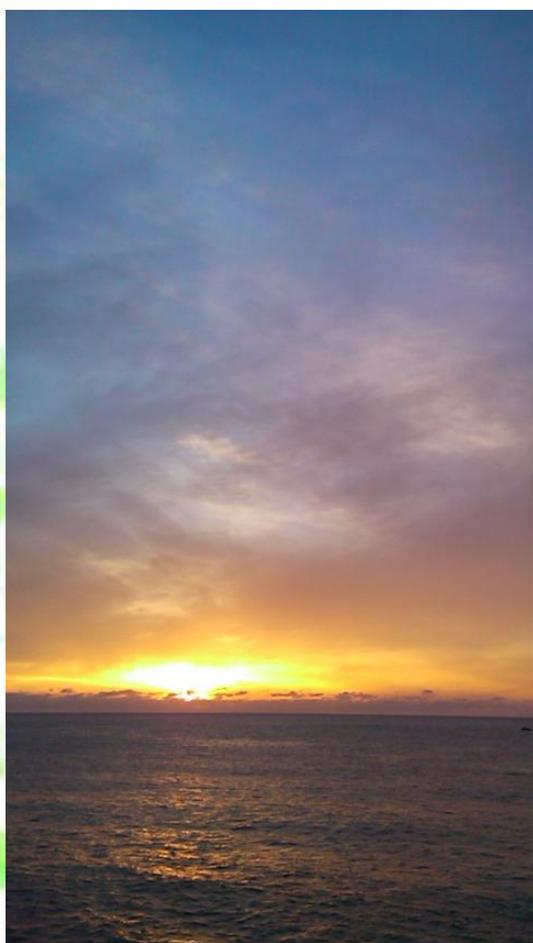


WACATE マガジン Magazine Vol.22

🌸ご挨拶🌸

WACATE-Magazine をご覧の皆様、こんにちは。
WACATE-Magazine 編集部です。

今回からデザインをシンプルにリニューアルしました！WACATE も 2010 冬を迎え、新しい時代を迎えようとしています。



さて。もう既に皆様はご存知かと思いますが、とうとう WACATE 2010 冬の募集が開始いたしました。是非是非、お誘い合わせのうえ、ご参加くださいませ♪

WACATE-Magazine 編集部も、事前情報などを鋭意収集し、公開していきたいと思っております♪
ではでは、Magazine 22 号、開始です！

🌸お品書き🌸

【特集】

JaSST' 10 Hokkaido! Report!!

【特集】

WACATE 2010 冬募集開始記念！ミニ告知！！

【リレーコラム】

ワカテにきく。

【リレーコラム】

Software Test Topics

【連載】

ミュージカルに恋して

【不定期連載】

まーくの補給戦線異状なし！

【連載】

源太郎のソフトウェアテスト占い

【あとがき】

編集後記など

🌸WACATE Topics🌸

WACATE 2010 冬 募集開始！
<http://wacate.jp/>

JaSST' 10 Kyushu のメディアスポンサーに
WACATE-Magazine 編集部が！

**JaSST' 10 Tokai、10/16〆切！
間もなくです！！**

JaSST'10 HOKKAIDO Report!

～そして、地元は動きだす～

さる2010年10月1日(金)、札幌市教育文化会館(札幌市中央区北1条西13丁目)にてJaSST'10Hokkaidoが開催されました!



昨年より広い会場! ゆったり聴けました。天井が高くて開放的。去年よりも幾分参加者の表情が柔らかい気がしました。

■オープニング

JaSST'10 Hokkaido 実行委員の岡さんによるオープニング。

最初から”カミ宣言”が飛び出し、会場がなごみます。良いアイスブレイクになったのではないのでしょうか。

「現場が動かなきゃ何も始まらない」
ゲンバノチカラというのは初回から一貫したテーマとなっている。今回それを表に出してみた。

現場の力は地元のとニアリーイコール
地元の若い世代が発表している!

現場の力=地元の力が上がってよかったな、となるように。
持ち帰ってもらえるように。
そうなってくれると嬉しい、とのことでした。

基調講演 9:40~11:20

■S1 現場の力をメキメキ引き出すテスト戦略 湯本 剛氏 (JSTQB 技術委員)

タイトルについて、
「こんなタイトルをお願いします!」=タイトルありきだったw
ポスターまで作ってくれた。
紀伊国屋書店で見た人? →意外と少ない^^;

等身大ポスターがあるそうで(嘘)・・・
あ、さっそく滑った^^;

テスト PRESS 読んだ方? →ボチボチですねw

スープカレーの前段階ということで
テスト戦略についてのお話。

テスト戦略に対するアンケート回答→抽象的、あいまい。曖昧なので、実際どうする?が見えない。
一言で言おうとすると抽象的になる。
ちゃんと書こうとすると莫大な量になる。

考えていないヒトはいない。ただ、勝つ(=目標達成)ための法則になっているか?という、そうではない場合もある。納期ありきで話をしていますか? そこから入るとネガティブになる。やる気が出ない。あなたは何がやりたいのですか?
「やりたいこと」を戦略にするのです。
本来ナニをするべきか?がわかると、今ここまで出来ている、というのが見える→戦略がとれる。

また、立てた戦略を計画で作った後、ちゃんと使っていますか?

あそこに行こう!と思うからメキメキやる気が出てきます。

#戦略は基準ではなく、「どう勝つか」です。

#テスト戦略=どう勝つか?

#勝つ=目的を達成する

自分たちの状況に応じてどうやって戦うか?を
考える。優勢なのか劣勢なのか?

「ランチェスター理論の二つの法則」

293の鉄則を読んだことある方? →テスト PRESS
より多いですねw

293の鉄則にはこう記載されています。

- ・戦略(Strategy): やることを決めること。
- ・段取り(Logistics): 誰がやるか
- ・成果物

戦略は計画のひとつの要素。戦略は法則ともいえる。要は整理ができる。

戦略の整理図について

経営戦略の策定フローにあてはめてみた。これにより、整理ができる。

テストポリシー

- ・テストの定義を与える＝どういう目的でテストを行うのか？
- ・それをナニをもって実現したと判断するのか？(有効性をはかる)＝評価方法

戦略には2種類

- ・パターン(法則)
- ・アプローチ(パターンを実装するやりかた)

ISTQBはアプローチは戦略と異なる(戦略に含まれる)

全体を考えて、テストレベルで分割する。部分的に考えるとあとで膨大にふくれる。

複数の視点

1つの視点ではわからない。

ホワイトボックスとブラックボックスでは、テストのやり方(手順)は同じになるかもしれない。しかし、テスト設計方法が異なる(視点が異なる)。＝確認方法(確認すべきこと)が異なる。

レーザーポインタを例に使ったテストタイプの話。

- ・スイッチ押下で点く→機能
- ・中の電極が正しい？→構造
- ・連打して問題なし→非機能

このとき、実際にテストとしてやることは一緒だから一緒に考える

…とすると混乱するので、考えるときは別に考える。大事なものは何をみたいのか(観点)

#その結果、同じ手順であれば…とまとめるのは実施時でよい。まとめてテストできる。

レビューについては考えた直後に間違いを直せるのがよい。コード実装したらそこまでに例えば1ヶ月かかる＝書いたことを忘れてしまう。

なるべく直後に確認するのがよい。

単体テストはエチケットの。戸をあけたらしめる、みたいなイメージ。自分で判断できる間違いは直すのは当たり前前の習慣である

仕様変更が多いのは時代のニーズに答えようとしているから発生するのは正しい。

開発方法が変わればテストのやり方も変わる。

リスクは損得の度合い

リスク分析は御客様への影響

- ・変更入りまくり
- ・仕様決まってない。

回帰テストについて

回帰テストの目的によりテストのやりかたが変わってくる！！

ディグレードは、常にちょっとずつ条件を変えてテストすることが望まれる。

常に正常に動くか？の確認は常に同じことをやる必要がある(一番ノーマルな条件で動くか？とか)

回帰テストは自動化したほうがやはりよい。ただ、それに十して人間がやるか？>ディグレードを出したいならテストケースを変えていく必要がある。そうであれば人間がやる必要もでてくる。

あえて同じ殺虫剤を使う必要だってある！

複数のテストを最適化する、という考え

綺麗に縦割りにした状態でテストはうまくいきますか？

もちろんうまくいくところ(組織)もある。

下手をすると同じことを何度もやっていたり、必要なことをやっていないケースがある。

テストベースレビュー

テスト設計をしながらレビューする

テスト設計の視点で考えると問題が出やすい。いままでやっていたことはテストレベル、テストタイプを用意し、必要な時に必要なテストをする。これにはインフラが必要。

ひどい現場は現場がイテレーティブなのにPMはウォーターフォールだと思っている。

戦略オプション

作戦は複数用意したほうがよい

A作戦、B作戦…

と作ると良い。しっかりした文書ではなく、ホワイトボードに書けるレベルが良い。

ここまでが基本・・・

で、

テスト戦略立案の進め方について

テスト計画は常に一から考える必要はなく、過去の遺産を利用できない(新規に考えなければいけない)ところだけ考えればよい。フローズンスポットとホットスポットを明確にしておく。

テスト計画の標準化(どかっと分厚いドキュメント化)をしたがるが、それはうまくいかないことが多い。最初から変更点等を全て予測できない。最初からIEEE829の全項目の網羅は困難である。

どういう目的のテストをどのタイミングで行うか

「この目的はこのやりかたでやるのがよいよね？」

この目的なら部分部分でやろう

この目的なら、最終段階でまとめてやろう

...

原則、フィードバックが適切に行われる時期でテストをする。

「**バインディングタイム**」

(変数を定義してから利用するまでにどのくらい時間がかかるのか→適切な時期がある)

アプローチ＝「**こうやりたい!**」

それが実現するために、どうするか(実現可能か)?を次に考える。

アプローチが唯一設計とダイレクトにつながっていく。

つなげていくために大事なものは、テストケースまでにつなげるうちに組み立てていく要素はどういう環境か?ということ。

大中小だけでやるとダメな理由は、なにを大とするか?中とするか?というポリシーが無いから。ぶれてしまう(あるところでは大なのに別のところで小になる、など)

→構造が壊れる。関係性を重要視する。

→流用できない(よくわからないけれど前やってたからやっておこうとなる)。

組織にポリシーがあると良い。目的は段階に分ける。いつやれば役に立つのか?を考えるとタイミングが決まる。

テストコンディションと繋がるのは期待結果。

立てた戦略は使わないと意味がない!

Q 見積もり:テストの件数ってどう出す?

今は過去の実績から類推、変更の影響度など...

A それで良いと思う。ざっくりしすぎるとよくない。テストカテゴリのレベルで見積もりを立てるのがよいと思う。

Q1. ちなみに、そのデータを貯めてます?

A1. 振り返りができてない。見積もりが正しかったかを確認していない。

そこなんですよね。ずっととっていることが大事。テスト実行時間の実績なども。書いたところはデータを蓄積していて、それがやはり近似値は出ます。繰り返すことで精度があがる。

さいしょは「えいや」で出すしかなく、そのあと実績をとって精度を上げる。データの蓄積とブラッシュアップをしていく。

◆感想

テスト戦略については、どこもやりかたは意識していると思うけど、ナニをもって勝つとするか?ということ意識していない。状況はある程度把握しているがどこに向かうべきかを意識していないし認識を合わせていない。そこを明確にするだけでも改善されるのではないだろうか。また、制約からベストエフォート、と考えがちだが、そうではなくゴールを設定した上で与えられた条件で最適なやりかたを考えるのがよいのではないか。・・・と、セッションを聴いている中で考えていました。

現場と照合して今よりもっと効果的な戦略を立てるためのヒントが得られた参加者も多かったのではないのでしょうか?

S2 一般発表 11:30~12:30

■S2-1 一般発表1: 潜在不具合炙り出しテスト ~テストは計画的に~

中嶋 信氏 (東京エレクトロン ソフトウェア・テクノロジーズ)

地元のイケメン若手の発表です!

聴いているときは笑顔で♪というお願いから始まりました。犬の写真がちょーかわいい☆

背景:

上司との飲みの席での会話から。

「飲みのシメにはナニを食べたい?」

「たまにはカレーはどう?」

「そういうのはあり得ないでしょw」

(・・・こ、これはWACATE2009冬プレゼンバトルで負かしたアノ人への挑発かwww)

リコールより、しょっちゅうでる問題でお客さんの作業を止めて困らせるほうがもっと問題だろう?

→快適に使っていただけるためには?

→少なくともシステムが止まるような重要な不具合はなくそう

→じゃあ運用面を考慮してはどうか

・・・と言う話を上司としたら、

「炙り出しプロジェクト」が立ち上がってしまったwww

決してシステムを燃やしているわけではあり
ませんw(ちょっと笑いをとった!)

状況に対し、(実施可能量の)予測、(実施機能の)
絞り込み、(テストプロセスや手法の)共有 の対
策をとる。

でも、これらは、やっていないわけじゃない!

・・・そうだ、スープカレーだ!

スープカレー表を利用してみよう。ということで
その事例紹介。
すぐに本番突入は危ないので、機能を絞り込んで、
この手法の検証を試みた。

課題として、

- ・ 使い方がヒトによる
→手順書を作成し、レクチャー
- ・ 観点の幅がヒトによる
→テスト観点を設定。スープカレー表をテンプレ
化

Q 顧客観点について

どのような手法で出した?

A 検証時にでてきた観点をカテゴライズして整
理した結果。

◆感想

TEF 道で学んだこと(地元のカ)を現場で活用
し(現場のカとし)、それを発表することで、より
学んだことの価値を高めていて、素晴らしいと思
いました。プレゼンもさすが勝者だけあって上手か
ったです。WACATE にも参加していた中嶋さん。
あのプレゼン王を破った男として、開始直後の”
挑発”は WACATE に来ていた方は全員ニヤリとし
たのではないのでしょうかw

最初のアイスブレイクは WACATE のコミュニ
ケーションにヒントを得たようで、WACATE で学んだ
ことを JaSST で活かす、という素晴らしい所業を
為しました。

TEF 道の皆さんの行動力には毎回驚かされま
すね!

■S2-2 一般発表2: テストカ/レビューカ向 上に向けた欠陥管理のススメ

細川 宣啓氏 (日本アイ・ピー・エム)

コード巻け、と言われてきましたが、しませんw

技法のセミナーに来ておいてなんですが、
技法だけやっててもダメと若い人に伝えたい。

今回は事例発表です。

クレショフ効果というプレゼンテーション技法
(2つ3つの画面をモニタージュすることで他の
画面に影響を与える)

SOや踊る〇〇〇線などで使われています。

2つのストーリーが同時進行する

銀の弾丸の話

バグ記録の話

NoSilverBullet。

でも若い人は技法好き。でも若い時に使ってい
ても「そんなの知らない」とよく言われる。
それは技法が万能ではなく、使う場所を選ぶから
である。

- ・ バグを記録している人?
 - ・ Excel で作ってる人?
 - ・ バグを追跡している人?
- もちろんそれなりに手が上がる。

- ・ では、ポインタエラーが発生する確率が言える
人?
 - ・ インターフェースエラーが発生する確率が言え
る人?
- さすがに手が上がらない。

記録しているということは管理しているとい
うことと勘違いされる。

1つのプロジェクトでは複数の欠陥があります。

バグが情報が会社にある人?

バグ(欠陥)のマスタを持つのは重要です。レビ
ューするのも同じ。

普段は手帳にバグ情報を書いておいて、それをマ
スタに落とすようなことをしています。

病理学には病理のマスタがあります。公共的に。
PubMedといいます。

バグのPubMedを作りたいと思っています。

バグの情報を分類しているので、もっとデータ
を見たい。

ところで、桁落ちが発生する理由ってわかりま
すか?

→浮動小数点の計算、ということではありません。

「桁落ちという言葉自体を教育されていない若
者が増えている」のです。

バグメモを取りましょう。持っているが強いです。

「どの銀の弾丸を使うか、と模索するよりも、どの怪物を倒すか、が重要。

あなたが戦うべき真の相手は？技の学習よりも大切なことに気付かないか？」

How は What が決まった後に決まる。どのバグを取るのにどの技を使うか？を考えよう。

Q. 記入例において

中見が設計や実装を前提にしていると思いますが、要求仕様の分類は機能で考えるのが多いですが、どのようなコツがありますか？

A. 機能を作らないで済むことを考えます。

要求が正しいかどうか？を考えるレベルもあります。機能分類される事が多いが、粒度に気を付けるようにします。要求仕様を見ようと思うと、私たちが使っている「階層的欠陥分類」のレベル4以上に重点を置きます。

◆感想

プレゼンバトルまさかの敗者wであっても、やはり細川さんのプレゼンはとても魅力的☆さすがプレゼンの達人！と言いたくなるくらい引きこまれます。「階層的欠陥分類」は大変参考になる資料です。いつか WACATE で話してもらいたいですね♪

「バグマスタ」が多くの組織で取り組まれ、もっと有効活用されるようになることを願っています。

バグの公共的な DB の話は、にしさんが食いついてましたw

S3 ライトニングトークス 13:30~14:30

■S3 今年もやります！ライトニングトークス～自分の殻をぶち破れ！～

□長谷川さん

テストの現場が楽しくなるちょっとした取り組み

昨年釣りの話しちゃったのでwww

テストの現場が楽しくなるというよりワイワイできる「かも知れない」ちょっとした取り組みを紹介します。

ワイワイするにはどうしたらよいかというところ

- ・自信を持てる
- ・やりたいようにできる
- ・価値を感じる

3つ紹介

「今日のホームラン」=自信を持てる。

ポイントは、ホームランの打ち方(テスト設計技術)にフォーカスすること。

打ち方にフォーカスをすることで「設計技術」がクローズアップされる。

スキルアップの加速に繋がる。

「設計現場ヒアリング」=やりたいように出来る。

話すことでプロダクトの出来栄え、弱点などが読みとれたりする。

それを独立したテストチームの視点で判断する。

・プロダクト知識の吸収

・弱点判断

・あくまでヒアリングであること。

テストベース以外により攻める切り口を考える。

仕事がやりやすくなる。

「トレジャーハンティング」=価値を感じる。

新たなメンバーの参画時に・・・

バグは宝物なんだ。

テスト担当者はトレジャーハンター

マトリクスは宝の地図！！

→宝探しをしたくなる♪

重要性を感じる事ができる。

若い技術者に興味を持たせる事ができる。

宝探しの方法を堂々と話せる。

どれも数値的効果はみられないけどw

□島田さん

Ruby におけるテスト環境の紹介(導入編)

告知：札幌 Ruby 会議 12 月 4 日！

テストを大事にするコミュニティが多い。

テストについて

テストの定義：エラーを見つけるつもりでプログラムを実行する過程

→開発者としてはしっくりする。

2つの成果物

パスしたコード(エラーを直したコード)

テストにより手に入れた情報

→次にナニをしなければならぬかがわかる

・・・つまり、プロダクトとプロセスが成果物！

開発者テストとは

テストによって生まれるフィードバックのループで開発者が安心できるようにする

じゃあ Ruby の人達は？

テストレベルごとにどのようにやるのがよい
か？→各ツールを開発

デモをしたいけど、時間切れなので、続きは Ruby
会議で！！w

□鶴谷さん

ゲンバノチカラを最大化するためのたった一つ
の冴えた考え方

事実：価値を生むのは正しいコード

コードをかくことに開発者が専念できる環境を
つくる→その時間を邪魔するのは？
→中間成果物としての設計書・ドキュメント書き
(反論はあるとおもうけど・・・^^;))
→人手に頼ったテスト

本当にやりたいのはテスト設計。なので、中間成
果物を圧縮したw
→自動化を考えた

ヒトが本当にやらなきゃいけないところにリソ
ースを投入し、テスト設計に専念すべき。
テストケースを Excel で作って TestRunner にか
ける。

先を見通す(先手を打つ)

ゲンバは楽しくハッピーに。
他はコンピュータに頼ろうよ！！

□杉田さん

We will go to outside the world
(外にでていこうよ！！)

日本は 2000 年くらいが最大の人口>減少してい
る。日本は小さなマーケットになっていく。
…他の国はどうしてる？
「一国の大きな企業」フィンランド・韓国など…

井の中の蛙にならないように
スキルはいろいろあると思う。自分たちの強み・
弱みを知って上のほうにあがっていこう
他の国にもテストエンジニアはいます。
中国、ベトナム、フィリピン… 負けていられな
い。

日本のテストエンジニアもグローバルプレーヤ
ーになろう！

…まずは北海道からどう？w

□奥村さん

3段階レビュー

昨年に引き続きレビューのお話

レビューという手段を用いてテスト設計スキル
を身につけてついでに品質もよくなったらラッ
キー♪

1段階目：テスト設計開始前/教育がメイン

ウォークスルー形式で。
テストケースのあるべき姿を追究
各メンバのスキルを把握。

2段階目：テスト設計中/手戻りの予防・リスク
軽減

教育の要素もまだ残っている
このやりかたで間違っていないか？
ペアレビュー形式 テスト設計者とテストマ
ネージャ or リーダー
ヒトにより複数回実施する必要がある

3段階目：テスト設計後/いわゆる成果物レビ
ュー

3つもやるなんて時間ないのでは？
→最終的には早く終わったりする。

□桜井さん

はじめてのシナリオテスト

シナリオテストを無茶ぶりされた・・・
自分のわかるレベルで考えてみた！

単体機能テストならわかる。
それらが全部あつまったのがシステムテストだ
よね。

パワポも初めてで嬉しいですwww
(いやいや初めてとは思えないほどかわいく上手
かった！！)

要求や要件から、期待値を考えた。
仕様通りでは何も嬉しくない。
「スムーズに」「素早く」「簡単に」・・・顧客の
希望をかなえる

最終的に 2 本

時系列のシナリオ
組み合わせ&設定変更シナリオ

結果：新たな不具合を発見できなかった><；
→なんでやねん？
→正常系のみ想定しているよね・・・
→機能から逆算してるよね・・・
改善案も考えたが、今日の講演を聞いて
「どういうバグを出したいのか？」という観点
が足りなかった？！

□秋元さん

繰り返し使える！品質特性テンプレート

非機能要件の話をして話がかみ合わない・・・
解釈がばらばら^^；

世の中の標準ってあるでしょ？→品質特性にたどり着く。使おうヨ。

効率性とは？

・・・定義はわからなくないが、抽象的でわからんっ
www

→わかるようにしようよ→テンプレートをつくってみた♪

定義・解説・事例 をリストアップしてみた。
→共通認識がとれるようになったぞ

さらにその右に、要件と案を並べる。

と、どの案が一番よさそうか、の判断に役立つねえw

明確な基準を持つ

基準に基づき事例の積み重ねをする

→繰り返し使えるテンプレート

ちなみに品質特性は

「**きししこほい**」と覚えましょう！w

□小田部さん

マインドマップで始めるブレない目標作り

たくさん目的を整理する

3ステップで目標作り

1：目標を3つに分ける

外側(組織)・内側(個人)・生活 のメインプランチを設ける

2：優先順位の整理

3：目標をRIAで詳細化(Reason 理由, Image, Action)

すると、最終的になにがやりたいことか？がみえてくる。

日常レベルから初めてみよう！

まとめ

全体が俯瞰出来る。

整合性が取れる。

楽しく描ける！

□鈴木さん

意地悪テストの観点

今日は三色ボールペンでもなくマインドマップでもなくw

ソフトウェアテスト技法ドリルから・・・

実は1章に、テスト技法の前にテスト技術者が抑えておかなければならない考え方が書いてある。

テストデータ(例)を挙げろ

テストデータの間を見ろ

対称を考えろ

他のテストデータが無いとか類推せよ

外側を見ろ

一文字で「例・間・対・類・外」

+意地悪テストをやれ

・・・え？これだけしか書いてないの???

じゃあ一文字考えよう！

・・・ついったーだから140！

・・・72でどうよ？

意地悪漢字w

裏と表にわけた・・・それを公開

ドメインによって異なってくるだろう

テストケースを漢字一文字でどうあらわすか？

を考えてみようw

S4 ワークショップ 14:45~16:45

■S4 TEF道 『聡美塾』 Presents

ユーザー視点とテストの素敵なコラボ ~魅力あるソフトウェアを創り出すのはテストから~
TEF道 (TEF北海道ソフトウェアテスト勉強会)

小楠さんのモデレートがとにかくよかった☆

「なんという事でしょう。」は名セリフ♪

分析手法として導きやすくなる

テスト分析からテスト設計につながると思う。

◆TEF 道とは

TEF 道とは、正式名称を「TEF 北海道ソフトウェアテスト勉強会」と呼び、普段は隔週で10名程度のメンバーが集まって活動しているコミュニティです。

この時間は TEF 道メンバーの主催による、テストケース仕様書作成のワークショップが開催されました。またこのワークショップの目的は下記になります。

- ・ **テストプロセスの実践によってテストへの理解を深めていく**
- ・ **他の参加者と成果物を比較することで「気づき」を発見する**
- ・ **2つの異なるプロセスでテスト仕様書を作成し、内容がどのように変化していくか体験する**

◆テスト対象のシステム

ワークショップでは、「英語読書日記携帯システム」の要求仕様書をもとに、システムテストのテスト仕様書を作成します。

このシステムの概要は、英語勉強の支援用に読んだ英語の本の語数や読書速度等を記録し、その総語数の遷移などをチャートで確認できるようにしたシステムです。

◆プロセス① 通常のテストケース作成

1番目のプロセスでは、要求仕様を読み込んだ上で普段自分が行っている方法でテストケースを作成します。その際重要と思われるテストケースから作成するようにとの指示だったので、まず何が重要なのかを判断するのに時間がかかりました。私の場合は**ゼロ割**に焦点を当てることとし、読書時間にゼロが入るテストケースを作成することにしました。

テストケース仕様書のテンプレートは用意されていたので、「テストケース No.」「テスト事前条件」「テスト手順」「期待値」の各項目を埋めてテストケースを作成していききました。

◆作成過程のリバースエンジニアリング

テストケース作成後、次はテスト分析表を使って作成したテストケースの背景を分析していきます。

テスト分析表は「テストケースの目的」「使用したテスト技法」「想定したユーザー」「考慮したシステムの振る舞い」の各項目が用意されており、各項目を埋めていくことでテストケースを分析していきます。

最初は各項目を埋めるだけで本当に分析できるのか半信半疑だったのですが、実際に埋めてみると**自分が普段何を考えてテストケースを作成しているのかが可視化できました**。さらにこの後隣の参加者と意見交換する時間があったのですが、この分析表を使うことでテストケースの説明がスムーズに進み**情報共有**にも使える便利なツールであることが実感できました。

◆プロセス② スープカレー表でテストケース作成

ここからは TEF 道で実践している、**スープカレー表**を用いたテストケース仕様書作成の作業に入ります。

スープカレー表の特徴は以下です。

- ・ **システムを5W1Hの表にまとめる**
- ・ **縦に機能観点、横に利用者観点を記入する**
- ・ **その機能観点と利用者観点を埋めてテスト観点を抽出する様が、ちょうどライスをスープに潜らせるイメージと重なり「スープカレー表」と呼んでいる**

また5W1Hは以下になります。

- ・ What：要求仕様書から抽出した機能
- ・ Why：その機能が作られた目的
- ・ What+Where+When：システムの使用状況（コンテキスト・オブ・ユース）
- ・ How：想定ユーザーによる非機能要求

想定ユーザーはペルソナから作成します。さらに想定ユーザーがシステムを利用しているシナリオから非機能要求を導き出します。

一旦導き出した非機能要求は、品質特性で改めて整理することでより具体的な内容に更新されます。

例：

元の非機能要求：「**分かりやすい操作**」

↓

品質特性：「**理解性**」

↓

更新後：「**画面上のコントロールが操作順に並んでいる**」

5W1H を作成後、どの**機能**がどのような**状況**で使用された場合に、各**非機能要求**と照らし合わせてどのようなテストが必要か、表を埋めていきます。その表から改めてテストケースを作成してみたところ、非機能要求を明確にした分だけプロセス①で作成したテストケースよりも、記述内容が**より明確かつ詳細**に書けるようになりました。

今回はテストケースを作成した時点で時間切れとなってしまいましたが、実際はより少ない手順でテストケースを実施できるように工夫するなどの作業を続けてテスト仕様書を作成していきます。

◆スープカレー表が意味するもの

スープカレー表を作成することで、システムを「開発」「テスト」「利用者」という3つの観点から眺められる「**3D 地図**」にすることが出来ます。また3D 地図にすることで、開発者とテストエンジニアの間でユーザーの要求を**共通の認識**として持つことが出来る様になります。

◆まとめ

スープカレー表を実際に使ってみると、慣れない内は表を埋めるのに苦労しそうですが、きちんと作ればユーザー視点から導き出した**各非機能要求に対して明確なテストケースを作成出来る**ことが分かりました。

また他のメンバーに対してもテストケースの説明が容易に出来るので、**テスト戦略などの情報も共有**することが出来、魅力あるソフトウェア作成に向けた強力なツールになりそうです。

S5 ゲストコメント 16:45~17:15

◆湯本さん

とても身のある一日だったのでは？
スープカレーを食べた事はないけれど、面白いです。

自分のやり方、ワークショップで面白かったのは最初に自分でテストケースを作ってみて、それをリバーズすることでした。

この後の懇親会で、またゆっくりお話できればと。



◆細川さん

ワークショップをやるとへロへロになりますね。
やり方はとても面白かったです。

技法だけじゃダメ、と言ったけれども、やはり面白いですね。

エンジニアリングって工夫なんでうしょね。
先人達の「抜け」からああいって文化が生まれる。
スープカレー表は熟成されることで観点が変わるのでは？と思いました。
そのうち立体になるような気がします。

げんばのチカラ、今日一日でついたのではないでしょう？

LTに出てみたいな、と思ったら是非チャレンジしてください。

登竜門というよりも、面白そうだと思うコトが大切。色々な地域で開催されています。

来年も楽しみです。
今度は聴衆として(笑)

◆渡辺さん

今回のげんばのチカラ、楽しかったです。
最近コンサルばかりなので久しぶりに要求仕様書を見ましたw

昔はテストケースを共有しない。
他の人の作成したテストケースを見ることも少ない。です。そういった意味でとても新鮮でした。

どの観点を考えるか、粒度が難しいと思いました。
要求だけでもテストだけでもダメかな、と。

結構若い人が多いですね。とても面白かったです。
げんばで困っている事などあれば是非情報交換会でお話しましょう。

◆片山先生

関門海峡を越えてきたのは何を隠そう私です。
午前中からテスト計画、欠陥管理、魅力ある製品をテストから、は素晴らしいテーマです。

LTは北海道の魅力の一つですね。
良い事をするとな人に伝えたくなるのです。
良い事をしてどんどん大きくなって、どんどん成長していければと。
11/26熊本でJaSST'10 Kyushu をやります。
こちらも是非。

■クロージング

JaSST'10 Hokkaido 実行委員長である本多慶匡さんによる感謝感謝のクロージング。
参加者の登録状況の流れまで公開w
たくさんの苦勞の上に、イベントはなりたっていました。

◆情報交換会

今回の情報交換会はなんと会場を使ってパンで乾杯！伝説の**“神司会”**がエスコートしてくださいました♪
リーズナブルながらも少し碎けた雰囲気のまま、講義のような形で取り行われました。

◆細川さん

若い人を育てるには外に出すと良い。
バグリストを作っている企業があったら教えてください。僕のバグリストはモレスキンの手帳で4冊目です。
※技法のメモリストはまだ1冊なのにw

バグの方が好きなんですね。

Q. このバグは他でも出そうという目を養うにはどうすればよいですか？

A. バグには連鎖があります。
受けた教育による影響、誰に師事したかでも変わる。定量的ではないですが、感覚的にはわかっています。

◆渡辺さん

育成の話が出たので。
上司のタイプ、部下のタイプでアプローチを変える必要があります。

頭は良いけれどプログラムのニガテな知り合いの話。(ネチっこい人)
バグにはとても詳しい。
→品質部門を立ち上げて成功している。
※面白い話ほど実名出せないわw

テストで悩んだこと。
・どうしよう？って考えたこと。
いくつか壁を感じた。思いたすと外部設計だった。

自分の頭で考えないとダメ。

◆鈴木三紀夫さん

形容詞、副詞を集めた。
最初は趣味で集めるのだけれど、いつの間にかそれが習慣になり、いつの間にかそれが魂になった。

ネガティブワードばかりだから気が滅入るんだよw

◆湯本さん

私が転職した理由！w
湯本さんの経歴
コンサルになったのは、突破口になりたかった。

システムの出来栄を判断する、という質を上げたい。

- ・プロとしての心構え
- ・テストを開発する
- ・実行まで一貫してツールを使う。

テスト開発プロセスのインフラが提供されない。日本のエンジニアは徹夜で頑張っちゃう。しかし、インフラを提供してもらえたら使いこなせるか？
両方に問題がある。かけ合わせてスパークするようにしたい。
皆にインフラを使いこなしてほしい。

だから、私は転職したのです。

◆にしさん

マレーシアは6000万人くらい。頭を鍛えないとマズいと思っている。
契約金にはレベルがある。

1. 月 150-120
2. 月 120-60
3. 月 60-30
4. 月 30-20 以下

テストの全体像を書く技術は日本が世界一のはず。スープカレーというメインだけでなく、北海道でフルコースを作って欲しい。

◆感想

今回も内容盛りだくさんのJaSST' 10 Hokkaidoでした。Magazine編集部として行くのは2回目となりましたが、毎回豪華講師陣が最新の話をしている気がします♪

これも、JaSST' 10 Hokkaidoの実行委員の皆様の人徳の賜物です。来年も見逃さないですね☆



次号はTEF-道の皆さんと行ったニセコツアーのご紹介をしたいと思います！

Hokkaidoに行きたくなること間違いなしです！お楽しみに～！

書いた人：Magazine編集部

— WACATE 2010 冬 —

募集開始記念！！ミニ告知！！

いやー、皆さん気温の上下が進む中、いかがおすごしでしょうか！？身体が悲鳴を上げる今日この頃ですが、そんな皆さんにアツイニュースがあります！

そう！WACATE 2010 冬、とうとう募集開始です！！

今回のWACATE-Magazineでは募集開始を皮切りに今回のWACATE 2010 冬についてちょびっと情報公開をしていきたいと思っております！まだ決めきれていない部分もありますが、とりあえずどーんご紹介！！

■メインテーマ

冬のWACATEは広く浅く、と言いますが

今回のテーマは「**温故知新**」

「古(故)きをたず(温)ねて新しきを知る！」

新しいものを生み出すのは、古いものが基本になっていることが多いものです。

今回もたくさんの気づきを得ていただくために実行委員一同、文字通り知恵を絞って考えております！

■ラインナップ

プログラムは[こちら](#)にあります、かるーくセッションの紹介もしちゃいます！

◆◆1日目！

◆オープニングセッション！

坂さん

今回のオープニングはアフロ…じゃなかったスター★から引継ぎ、副実行委員長となった坂さんが担当します！

やわらかい雰囲気でのオープニングは参加者の皆さんに安心感とおだやかな緊張感を与えてくれそうですね！

◆ポジションペーパーセッション！

井芹さん

恒例のポジペセッション。タクトを振るのは新加入の井芹さん！

気合を入れて書いたポジションペーパーを手に、何故、WACATEにやってきたのかを皆さんに存分に話していただきます。

お互いの立場を理解しあい、二日間の仲間を作りましょう。

◆BPPセッション！

前回受賞者、小田部さん

前回のポジションペーパー賞受賞者によるセッションです。

タイトル・中身はまだ未定ですが発表者はMagazineで「日々撮影」を連載している小田部さん！

たくさんの引き出しを持っている小田部さんから何が飛び出すか、今から楽しみです！

◆技法、その前にセッション！

鈴木さん

技法技法というけれど、果たしてその技法はいったいどんな技法なのか？

どんなテストを普段しているのか？を少し考えてから聞くと、きっと自分がどんなテストをしているのか、がわかります！

◆テスト技法セッション！

加瀬さん

イキメンメガネCEGTestで有名な加瀬さんが担当するのは今年も技法セッション。

今回のテーマはデシジョンテーブルです。

古くから疲れているツールですし、テストエンジニアも開発エンジニアも一度は使ったことがあると思います。また、原因結果グラフ(CEG)やCFD法とも関係の深いテスト技法です。

今一度、ガッツリ復習してみましょう！いつもの技法セッションよりも長い時間を取ってありますので、ミッチリ練習して現場に戻った時の武器にしましょう！

◆テスト設計セッション！

近江さん、井芹さん

さあ～みんなで考えよう！

折角学んだ知識、使ってみなければもったいない！

今回のテスト設計セッションは近江さん、井芹さんによる仲間と考えるセッションです！

細かいことは現在調整中です。乞うご期待！

◆ディナーセッション！

池田さん、山崎さん

既に恒例となりましたディナーセッション。海の幸に舌鼓を打ちながら軽快なトークに酔いしれます。

さて、今回は何が飛び出すのか…？

◆夜の分科会！

参加者の皆さん

参加者の皆さんでお酒・おつまみを交えながらわいわいと語り合います。

テーマについては現在調整中となっておりますがテスト仲間と語らうこの時間、想像しているよりも楽しいですよ♪

◆◆2日目!

◆モーニングセッション!

ないしょ

現在調整中のモーニングセッション。

内容はまだお見せできませんが乞うご期待!

◆技法の必要性について考えるセッション!

河野さん

そもそも「技法」って?という深いテーマを扱います。

詳しい内容はまだ出ていませんが、さまざまところで講師をされている河野さんによるセッションは楽しめること間違いなし!

◆Test. SSF セッション!

コヤマン

Test. SSFをご存知ですか?というところから開始するTest. SSFセッション。

担当するはWACATE実行委員会のお笑い担当・コヤマンです。

いったいどんなセッションになるのか?…さあどーなんでしょうか!ww

◆クロージングセッション!

辰巳さん

ソフトウェアテストPRESS vol.8~vol.9に寄稿された「ソフトウェアテスト・ヒストリー」で著名な辰巳さんによるクロージングセッションです。温故知新をテーマに辰巳さんの口から放たれる金言は、きっと参加者にさまざまな価値を生み出すでしょう。

WACATE-Magazine編集部も今から辰巳さんの話が楽しみです!

テスト技法にテスト設計、技法について考えながら自分を振り返り、そして歴史を知る。

重厚なセッションが目白押しで今から楽しみですわ!

■新実行委員も大活躍!

WACATE 2010 冬からはWACATEだけではなくとちぎテストの会やyomite.swtest、jissen.swtestなどのコミュニティ、さらには智美塾などに積極的に参加されている

若手世代の井芹洋輝さんが実行委員として参画!彼の活躍も見所です!

また、前回魅惑的なプレゼンで参加者を驚愕させ、yomite, swtest や jissen, swtest などのコミュニティで活躍されている近江久美子さんも今回はワークショップに挑戦!

素晴らしいプレゼンに加え、熟慮を重ねたワークをお楽しみに!

■来たれ! WACATE 達!

WACATE 2010 冬は若手(WACATE)もベテランも楽しめる大規模勉強会です。

覚悟を決めたら後は突き進むのみ!

きっとたくさんの情報に触れ、たくさんの気づきを得られることでしょう。

来たれ! WACATE 達!

■いつやるの?

2010/12/18[sat]~19[sun]

神奈川県三浦市 南下浦町上宮田 3231

マホロバ・マインズ三浦です!

1泊2日、4食、テスト付き!w

ポジペを気合入れて書いた後は、温泉とテストが待っています!

#ポジペは印刷をするので、期限までに書いてくださいね!

■前夜祭もやるよ!

恒例となっている前夜祭ですが、今回はShortShortではなくWACATE実行委員会による場の提供という形式となります。

とはいえ、前夜から集まって盛り上がりう☆という趣旨に変わりはありません^^

詳細は後日参加者の皆様にお知らせしますので、今しばらくお待ちくださいね~☆

是非是非、お申込みください!

申し込みは[コチラ!](#)

来たれ! 若人の心を持つエンジニアよ!

書いた人: WACATE 2010 冬 実行委員会

わがカテにきく※

第22回：【ソフトウェアテストとの出会い、そして成長のきっかけ】ていがさん

みなさんはじめまして、nobitaさんから執筆紹介を受け、今回コラムを担当するていがと申します。会社ではテスト技術の調査・教育をメインとして活動しており、テストエンジニアとしての実施経験は組み込み系のテストが多いです。

今回はテストにはじめて携わったときの体験談、その当時ソフトウェアテストにどんなイメージを持っていたかなどについてお話ししたいと思います。

テストとの出会い

入社後、ツールアプリケーションのテスト実行を担当することになりました。当時はテストとデバッグの違いがよく分からず、

『プログラミングした後、自分の意図した通りに動くか確認して修正するのがデバッグだったな。テストも似たようなものかな？』

というように、テストでも対象アプリが正しく動くことを確認するんだらうなと考えていました。

テストケースを確認してみても驚き

先輩からテストケースを見せて頂き（この時がはじめて「テストケース」というものに触れた機会だと思います）、ビックリした思い出があります。テストケースには、動作確認する項目や合否判定を記述する欄などの様々な情報が表の形式で際限なく（という言い過ぎ？）並んでいて物凄いボリュームがあると感じました。ボリュームの多さもそうですが、主にビックリした原因は、自分が考えていたテストとのギャップがあったことでしょうか。

当初持っていたテストのイメージは、デバッグのように実際に対象アプリを動作させながらテストケースを作成しつつ、記述も同時に行うことでした。いわゆるやみくもテストに近い感じです。しかし、頂いたテストケースを見ると、すでに動作確認すべき内容がしっかりと記述されており、私の考えていた作業の進め方とは全く異なっていました。

さあ、テスト実行！

意図した通り正しく動くのは当たり前？

そんなこんなで、テストケースを基にしたテスト実行作業への着手です。

この実行の際も、テストについて、“対象アプリが正しく動くことを確認する” → “開発者が意図した通り正しく動くのが当然” というように考えていましたので、合否判定は“合格”ばかりだろう、と思っていました。しかし、テスト実行を進めると“不合格”（不具合）を発見することになります。

はじめの内は不具合について記録するだけでしたが、その内、不具合の種類について表示系や設定パラメータなど何らかのパターンがあることに気付くと、いつの間にか「次はこのケースでも不合格になりそうだな」と、



著者近影（メガネは手放せません）

テスト実行で不具合を探そうとするようになりました。いつの間にか、意図した通りに動くことをテストで確認する → テストで不具合を見つける、という目的でテスト実行するようになっていました。

順調にテスト実行を進めて、無事に初テスト作業を完了することができました。

テスト実行を振り返ってみて

実際にテスト実行を進めることにより、

- テストのイメージを掴むことができた
⇒ デバッグのイメージからの脱却
- テスト実行に対する目的意識の変化
⇒ 意図した通り動くのを確認することだけでなく、不具合を見つけるという目的も重要
- 不具合箇所を見つける視点
⇒ 不具合の起こりそうなパターンを類似ケースから見付けるノウハウ

ことに気付けたのは、大きな経験だったと思います。

成長のキーワードはギャップにあり？

自分が持っているイメージ・考え方と違う場面やケースに遭遇することで、

- どこが違う？
- どうして違う？

というギャップが出てくるかと思っています。

今回のテスト作業体験談においても、ギャップに注目することで成長の機会を掴むことができた、と考えられます。その点で言うと、不具合も期待値とのギャップがあるという理由で要チェックですね。

これからもテストにおけるギャップに注目して成長していきます。

以上です。乱文乱筆にも関わらずお読み下さりありがとうございました。

Software Test Topics

当番：上田卓由 (Magazine 編集部)

こんにちわです♪上田ですっ

9月に入ってもずーっと暑い日が続いていて、今年の冬はそんなに寒くならないのかなと思っていたら、、急に寒くなりましたね。。

ソフトウェアテストの秋ですねっ

WACATE2010 冬も、もうそろそろですねっ

さて、そんな今年ももうあと二ヶ月を切った今日この頃ですが、お役立ち情報をお届けしていきますー♪♪♪

【書籍】「ソフトウェアテスト技法ドリルーテスト設計の考え方と実際」発売

<http://www.juse-p.co.jp/>

著者：秋山浩一

価格：2,940円(税込み)

発売日：2010/10

出版社：日科技連出版社 (2010/10)

ISBN-10：4817193603

ISBN-13：978-4817193605

テストの設計についての解説、そして演習問題があります。いいですねっ♪

しかも、本書に連動して勉強会も開催されるようですよ！！

すばらしいですよ！！

【DVD】「JSTQB カンファレンス in 2010 「ISTQB world trend reports」ライブDVD 予約受付中

<http://jstqb.jp/event/conference2010.html>

販売期間：9月21日(火) 17時頃～10月7日(木) 17時頃

価格：8,000円/組 送料 350円

2010年10月14日(木)に「JSTQB カンファレンス in 2010」が開催される予定です。

カンファレンスの申し込みは終了してしまっていますが、会場の様子を撮影したライブDVDの一般販売分の予約は受付中です。(JSTQB 認定テスト技術者資格 Foundation Level 合格者分についての受付は終了しています)

【イベント】「JaSST' 10 東海」参加申し込み受付中

<http://www.jasst.jp/archives/jasst10n.html>

開催日：2010年10月22日(金)

場所：名古屋市中企業振興会館(吹上ホール)(名古屋千種区吹上二丁目6番3号)

参加費：シンポジウム参加費 5,250円(税込)、情報交換会 2,625円(税込)

申し込み〆切：10月16日(土)

この前開催されたJaSST' 10 北海道に続き、JaSST' 10 東海ですよ！！

参加締め切りまで、あとちょっとしかありませんが、まだまだ参加受付中です！！

【イベント】「ソフトウェア・メンテナンス・シンポジウム 2010」参加申し込み受付中

<http://www.smsg.or.jp/>

日時：2010年10月15日(金) 10:00-19:00 (受付 9:30から)

17:30-19:00 情報交換会

会場：全国情報サービス産業厚生年金基金会館(JJK) 7階会議室(東京都中央区築地4-1-14)

定員：60名(先着順)

参加費：一般は情報交換会付きで5,000円、情報交換会なしで4,000円、SMSG研究員は1,000円

申し込み〆切：2010年10月11日(月)

【資格】「第一回中級ソフトウェア品質技術者資格試験」申し込み受付中

<http://www.juse.or.jp/software/35/?top-bana>

開催日：2010年11月6日(土) 10:30~12:30 (試験実施時間 120分)

開催地域：東京

試験料：15,750円(税込み)

募集期間：9/17(金)~10/15(金) 15:00

試験開催まであと一ヶ月ですね！

がんばって資格をとっちゃいませよー！！

【資格】「第五回初級ソフトウェア品質技術者資格試験」申し込み受付中

<http://www.juse.or.jp/software/35/?top-bana>

開催日：2010年11月27日(土) 14:00~15:00 (試験実施時間 60分)

開催地域：東京、大阪、愛知、福岡

試験料：10,500円(税込み)

募集期間：9/24(金)~10/29(金) 15:00

中級ソフトウェア品質技術者資格試験の約20日後に初級の試験が行われます。

がんばって資格をとっちゃいませよー！！

このコーナーでは、書籍やイベントの情報を募集しています。

例えば、「来月勉強会とかOFF会とか開催するんだけど掲載してくれない？」といったものでもOKです。

開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。

情報をお待ちしておりますm(_)_m

池田暁の

ミュージカルに恋して。

[第二十二幕] 区切り

■急に秋模様

9月も「いったいつまでこの暑さが続くんだ」という日々でしたが、これを書いている時点ではいっきに秋模様となりました。10度以上温度が変わるものですから、どうやら風邪気味。それに加えて、いっきに秋の花粉が飛び出したようで、鼻水やくしゃみが大変なことになっています。皆様も、季節の変わり目ご自愛くださいね。

■井上芳雄 10周年記念コンサート

ここ数ヶ月間、非常に楽しみにしていた「井上芳雄 10周年記念コンサート (東京公演)」が東京・青山劇場にて10月11日~20日の10日間(一日一公演)開催されました。

・井上芳雄 10周年記念コンサート
<http://www.ntv.co.jp/inoueyoshio/>



演出は小池修一郎、音楽監督は島健という豪華な陣容。コンサートは二部構成で行われ、第1部は「ミュージカルショー —光と影—」、第2部は「スペシャルコンサート」でした。

第1部ではこれまで彼が歌ってきた楽曲からピックアップして構成されています。アプローズの「ようこそ劇場へ」から始まり、ウェディングシンガー、ミー&マイガール、ルドルフ、エリザベート、モーツァルトと、ファンにはたまらない選曲で、私もずっと興奮しっぱなしでした。どの曲も思い出深く、また現在の彼の実力で歌い上げられているのを記憶と比較して楽しんでみました。曲だけじゃなくダンスも上達しているのかな。ミー&マイガールから「ミー&マイガール」がありましたが、タップもしっかり踏んでいました。

というわけで、どの曲もたいそう盛り上がったのですが、その中でも彼のデビュー作であり持ち歌とも言えるであろうエリザベートの「闇が広がる」はイントロが流れただけで会場の雰囲気ガラリと変わります。しかも今回は、スクリーンが降りてきたかと思うと別撮りしたトート姿が！デュエット曲だけにどう歌うのだろうと思っていましたが、この一人「闇が広がる」のには会場は大きな衝撃を受け、大興奮。同じ人が歌っているのでハーモニーも完璧なわけで、歌い終わった後の拍手たるや、ものすごいものとなりました。

第2部は、マイケル・ジャクソンのMan in the Mirrorから始まり、ジャズありシャンソンあり、ポップスありと多彩な内容になりました。この第2部では日替わりゲストが登場するのですが、どの日も豪華でした。見所多かったですよ。

■区切りをつけること、区切りを付けられること

今回このコンサートに通っていてつくづく大切だよなと思ったのは、人との出会いを大切にすること、謙虚に学ぶこと、一つ一つ着実に積み上げていくこと、チャレンジする気持を持ち続けること、感謝の気持を忘れないこと、です。そして区切りを付けること、付けられることが大切と思いました。「区切りを付けること」は目的をちゃんと持って地道に積み上げていくからこそできることです。そしてこのコンサートのように「区切りを付けられる」機会を得られるのは、身の回りの応援があってこそだと思うのです。翻って自分はどうかということを帰り道にずっと考えていました。私はあと半年で35歳なのですが、数字の面から言うと、年齢的にも社会デビュー・時期的にもひとつの区切りの年となります。果たして後半年後に自分は区切りを付けられているのか、いや付けなければならぬのだと思います。

Man in the Mirrorでは「世界を変えたいと思うのならまず鏡に映った男からかえなければならぬ」みたいな歌詞がありますが、とても心に響いたメッセージでした。このWACATEという活動も、テストの現場とそこに働く人たちを変えたい、そのためにはまず自分から行動しないといけないという想いでやってきました。今後もその気持を忘れずにやっていかねばと記を引き締めなければなりません。

■終わりに

10月は小休止。ですが、エリザベートはもう一回くらい見たいところ。かんちゃんトート見てください！<終>

まーく 補給戦線異状なし!

本コーナーはテスト業界という
知的戦場で戦うテストエンジニアたちの
糖質補給等を暑苦しく支える
漢(おとこ)たちの物語である!

Extra Mission-4 : 北部方面戦線状況報告!!

さて、先月は、上等士官殿のお許しがでたので、北海道遠征をしてきました。遠征理由は、北海道にて新たな戦術の開発が進んだという情報を入手した事、ある方の講演ありと聞いて、たまたまに遠征した。

また、多くの部隊より猛者たちが集まってきてその情報交換は大変有意義だった。遠征先での内容は、大変満足できました。

さて今回の補給物資は、函館で大変有名なスナッフルである。スナッフルは、「チーズオムレット」で有名である。これはまるで半熟オムレットのようにとろりとした食感を持ったスフレタイプのチーズケーキで、口に入れると溶けるような食感がたまたまなく好きである。是非オススメです。

さらに、当部隊の下等士官は、「蒸し焼きショコラ」の大ファンであり、毎回毎回、北方遠征時には、補給物資として指示される。これは、チョココレートの美味しさが味わえるチーズオムレットの仲間だ。



すでに、下等士官が食べてしまったので、なぜか空間が空いてしまった。



実は、今回の北海道特別遠征には、いつも入手が不可能な「キャラメルキャッチケーキ」の補給作戦も同時に実行することを、上等士官より指

示されていた。

通常の遠征任務完了は、夕方から夜に至るために、部隊に帰投の飛行機に乗る時間には、いつも「売切れ」という、絶対に購入出来ない絶望的な哀しい状況であった。

しかし、今回は会議翌日の早々に帰投を命じられていたこともあり、補給作戦の成功は我が手にあり。だったが…

他部隊の方が、食いまくり、飲んだくれ、温泉三昧という素敵なミッションに参加移動するのは、ついて行きたかったのは事実である。
と一ても羨ましかったぜよ。

しかし、北の地での会議に参加させていただいた。上級士官の恩情を裏切る事はできないので、翌日は、早々にホテルより新千歳空港に向かったのであった。

空港に着き新千歳空港のANA FEASTAの補給所に向った。予想通りに、全てのスナッフルの補給を完了することが出来た。(良かった)

「キャラメルキャッチケーキ」



昔は、札幌では新千歳空港のANA FESTAでしか入手できなかったが、現在では、丸井今井店・さっぽろ大通店で入手可能となっているらしい。

生ものなので、日持ちしませんのでお気をつけください。

スナッフル:

<http://www.snaffles.jp/>

開 運

源太郎の ソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…
日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本古来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである！(笑)

	生まれ年	10月の運勢
一水星	S38/S47/S56/H2	運気は向上しつつある。万事支障なく進むが 月盤としては暗剣殺となるため 、吉日を選んで行うことが大切。慎重に行動に合った 吉日を選び吉方を用いれば 好機が訪れるであろう。
二黒土星	S37/S46/S55/H1	運気は外面は好調に見えるが、その内面は 渦潮の如く波乱に満ちている 。いま行動を起こせば砂上の楼閣のような様相となる。 好機を待ち戦力を蓄えることが吉 。
三碧木星	S36/S45/S54/S63	運気は極めて厳しい 。油断大敵、八方厳しい道だが 唯一安全な道があるはず 。周囲に目を配り常に 安全策をとるのが第一 。焦らず慎重な行動を心がけよ。
四緑木星	S35/S44/S53/S62	今月から運気は回復してくるが、まだまだ周囲から冷たい空気が迫り安穩とはしておれぬ。 金銭上でも有利とみえても用心が肝要 。
五黄土星	S34/S43/S52/S61	運気は非常に好調の波に乗りつつある。この機を逸せず従来からの計画を実行に移すのが良い。 躊躇すれば次の機会にも支障を起こす心配有り 。
六白金星	S33/S42/S51/S60	運気は いささか不安定 の感じ。新しい事柄に遭遇する気配も見えるが 十分な計画が必要 。しっかりとした過去(実績・経験)に築き上げた状態でこそ将来に結びつく大きな力ともなる。
七赤金星	S32/S41/S50/S59	運気は衰運が続くが やや見通しがつき始めてきている。しかし急いで運気が逆転し成果を逃してしまう。 心を抑え最後の情勢判断にかけるのが最善の策と心得よ 。
八白土星	S31/S40/S49/S58	運気は衰運 となり暗雲低迷の様相となる。ことに金銭上の事はよほど用心せぬと大きな損失を被る。 焦らず身辺の防御につくすことも肝要 。今月は、本業の鍛錬・勉強が吉となる。
九紫火星	S30/S39/S48/S57	運気は 一転して上昇 しているが、兎角手順・足並みが揃いにくい。 自分勝手な行動は目先に好物が有っても絶対禁物 。折角の成果を取り逃がす事にもなる。

月盤 三碧木星				年盤 八白土星			
南				南			
東 暗剣殺	2	7	9	東 五黄殺	7	3	5
	1	3	5		6	8	1
	6	8	4		2	4	9
北				北			

お知らせ

10月30日(木)に WACATE-Magazine vol.23 発行します！(たぶん)

次号の特集は「WACATE 2010 冬 情報！」を予定しています★

来たれ！投稿戦士！

WACATE-Magazine では“ソフトウェアテストや品質に関する記事”を常に募集中です。
来たれ！投・稿・戦・士！！

WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。※ノーギャラです。
投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。
特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。
レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などを行いません。
単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を読んだ、イイ感じな文体や内容をお願いします。
公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚悟完了！な方は WACATE-Magazine 編集部「magazine@wacate.jp」まで、是非ご連絡ください。
折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。
楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非ご協力いただければ幸いです♪

☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- 書籍情報(オススメ書籍情報も可)
 - イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
 - 勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
 - オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
 - デザート情報(甘いものならなんでも。イカス！やつで。)
- などなど、お待ちしております♪



来たれ
次世代の
戦士達よ！！

WACATE実行委員募集中♪

★★★ WACATE 実行委員募集中 ★★★

編集後記

いいんちょ★2010年度も半分が終了。気分入れ替えて頑張るよ！
きたー★WACATE 2010 冬、募集開始です。皆さんの参加をお待ちしています(*^-^*)
よえだ★10月、11月もイベントいっぱい、そして12月はWACATE!!
あはべ★JasST 北海道でLTに挑戦！緊張した〜。次はWACATEでBPPセッションです。
コヤマ>★WACATE 2010 冬も今からアツくなる予感ですね^^楽しみです！
ぼんぼん★窓を開けると金木犀の香りが漂うのが嬉しい今日この頃♪
まーく★タスクが落ち着いて気がするだけだけど、がんばる！
おらかみ★急に寒くなってきましたねえ〜、皆さん健康にはお気をつけてください♪

★あくづけ★

2010/10/15(Fri)はっころ
WACATE-Magazine へんしゅろ
✉Magazine@wacate.jp
<http://wacate.jp/Magazine/>